

ベンゲット州訪問記

～2010年1月ベンゲット州訪問記～

吉川 浩史

(くろしお農業振興協同組合代表理事)

平成22年1月25日から30日まで6名でベンゲット州を訪問して来ました。

目的は本年度の農業研修生の面接試験の実施と受入農家が帰国研修生を訪問することでした。

面接班は午前中の所定の面接科目を終了した後帰国研修生の活躍ぶりを見学しました。受入農家班は公式行事のない時間を利用して帰国研修生と2泊3日の州内旅行をしました。

何れの班も昨年10月2日からの8日間にこの地を襲った台風17号(ペペン)による「災害現場」の視察旅行みたいであったとの感想を述べていました。(別添写真参照)

台風17号は同地を2度襲いました。この台風の特徴は風よりも雨量にありました。総雨量は8日間で1,800mmを超える記録的な雨量でしたが、前半の3日間の雨量はベンゲットの通常の台風並みでしたが、後半の雨量は前半の雨量により土壌が緩み各地で山崩れ、土砂崩れを引き起こしました。ベンゲット州の犠牲者の総数は約200人。13の町では同じ雨量でも被害者数は意外に少数であった町がある半面、一部の町では被害が集中する所がありました。州都のラ・トリニダットのキブンガン集落は道路の上の山が崩れて土砂が道路を超えて集落を押し潰して約100名が犠牲になるなど数か所で多くの被害者が出ました。

台風が過ぎ去り経済の中心地バギオ市はベンゲット州からの野菜を中心とする農産物を供給する国道が2か所流されて不通の時期がありました。マニラや低地から供給される食料品、

電気、車の燃料等のあらゆる生活物資が同市に通ずる3つの道路、キャノン道路、マルコスハイウェイ、ナギリアン道路が大きな被害を受け中断しました。またマニラからこれらに通ずる大幹線道路の橋の一部橋桁が流されており、全ての陸路で供給される物資が中断されたり、電気がないので蝋燭が売り切れました。調理用のラードがないので料理が出来ない、車の燃料がないのでタクシー等車が走れないなど台風が過ぎて1週間から1カ月間は厳しい生活環境でした。

バギオ市は観光都市でもあり、11月は雨期も上がり12月のクリスマスの前に多くの会議が開催される時期ですが、この台風の被害により主催者側が開催地を他の場所に移したためバギオのホテル業界その他関係者は収入の見込みをそがれ損害を被りました。

また農民の多くは台風の被害をカバーする為に早く収穫できる白菜等を作ったので価格が暴落し、1kg4ペソ=8円等という原価割れの値段で売られていました。

台風被害で価格が異常に暴騰する物や暴落する物など、庶民生活には厳しい状況が続いています。



毎年、高知県国際交流協会の研修室を利用して、県民の皆様に、異文化に対する理解を深めてもらうため、「異文化理解講座」を開催しています。今年度も、ベンゲット州の様々な生活様式や文化習慣について、ベンゲット州出身で、高知大学に留学中のチェリルさんにお話をいただきました。3月に卒業し帰国の予定ですので、「高知の思い出」についてご紹介します。

高知で過ごした日々 チェリル カシワン ラウンニョ

高知は、結婚、出産、父親の死、そして3月の卒業など、多くの人生の節目を迎えたとても大切な場所です。

2006年秋、高知大学で博士号をとるために来高しました。しかし、期待していた以上に多くの出来事が起こり、大変貴重な経験ができました。振り返って見ると、ここで暮らした日々は何て素晴らしかったのだろうと改めて感じます。私は高知で、出産の大変さと喜びを知りました。その時何より有難かったのは、南国市保健センターと日本の担当医、そして素晴らしい友人たちが心をつくして助けてくれたことです。

息子は2歳になります。もうすぐしたら、自分の出生場所の欄に“Nankoku city”と書かれることが他の人と少し違うと分かる年齢になるでしょう。

でもこれを見る度に、私たちが高知で過ごした素晴らしい時間を思い出す事ができると思います。教会で出会った信者の皆さんは、私の結婚、妊娠、出産、大学での研究、論文の執筆、父の死の知らせを受けた時、大学での最後の発表、試験など、3年の間私に何かが起こるたびに、いつも

心を込めて一緒に祈ってくれました。彼らの信仰と愛がどんなに私を勇気づけてくれたでしょう。

今、私は、最愛の国、東洋の真珠といわれる国、フィリピン、に戻る準備をしています。高知は喜びと感謝の地として生涯忘れません。私に奨学金を与え日本に来るチャンスをもたらしてくれた日本政府、高知大学で私の研究の担当してくださった教授、留学生を支援する高知市と南国市のボランティアの皆様言葉にできないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。

そして高知の皆様が高知をのんびりしているけれども、活気のある場所として保ってくださっていることに心から感謝したいと思います。3年経った今、高知は私の故郷となりました。



家族とともに(右端が筆者)